

# Action for Butterflies

## チョウの舞う豊かな自然を将来へ

身近に広がる豊かな自然、里山。都市近郊では、開発によって自然そのものが貴重な存在になりつつあります。里山は、豊かな生物多様性を擁するとともに、自然に親しむ人々にとっても、憩いの場となっています。環境省も「SATOYAMAイニシアティブ」という方針を示し、失われつつある二次的自然環境を改めて見直すとともに、持続可能な形で保全・利用していくためにはどうすべきかを考え、行動する取り組みを進めています。里山はこうして注目を集めてはいますが、近年でも開発による破壊が進行しています。今回は、里山開発の問題を取り上げます。



### ●事業計画地

傾斜のある雑木林が広がる場所で、黄色の点線内が計画されている事業地。



### ●事業地を尾根から見下ろす

コナラ、ミズキ、エノキ、イヌシデなどの高木樹種が生える。



### ●森林内の様子

近年、手入れはされていないが、ネザサが生えておらず、林床の植物が豊かである。



### ●オオムラサキの越冬幼虫調査(2012年12月23～25日)

事業地および周辺域の広い範囲でオオムラサキの越冬幼虫調査を実施した。地元の方を中心に24人の方にご協力をいただいた。

## 神奈川県秦野市における巨大霊園開発問題

神奈川県秦野市には豊かな緑が残されており、チョウや昆虫の観察で訪れる人も多いほか、弘法山などは、多くのハイカーで賑わいます。環境省では、「里地里山保全再生モデル事業」として、全国4つの地域で、里地里山の保全及び再生に取り組む方法の検討を進めていますが、秦野市も対象地の一つに選定されています。

しかし、市をあげてこうした取り組みを進めている一方

で、都市近郊のベッドタウンとして、近年でもなお開発によって、雑木林が急速に失われつつあるのも事実です。今回、巨大霊園開発が秦野市南部の渋沢丘陵で計画されていることが明らかとなり、地元の「渋沢丘陵を考える会」(URL: <http://www001.upp.so-net.ne.jp/shibusawakkk/>) が計画の見直しを求める中心的な活動を行っています。これには、当協会や神奈川県昆虫談話会など、多くの団体が賛同を



しています。

計画の詳細は、本ページ下の意見広告に詳しく載っていますが、公益財団法人相模メモリアルパークによって、雑木林の広がる斜面を中心に、大規模に造成工事が計画されており、事業用地は19.9haです。渋沢丘陵を考える会を中心に、これまで見直しを求める多くの活動が行われてきましたが、計画の変更は難しい状況となっています。

当協会では、地元の団体より要望を受け、生物多様性の観点からの影響把握と提言を行うべく、オオムラサキの調査を地元の方の協力を得て実施しました。

この墓地の計画区域は、渋沢丘陵でもっともまとまった雑木林が残っている場所であり、オオムラサキの生息域の中核となっていることが予測されました。調査ではその通りの結果が得られ、事業地のエリアでは1本あたりに確認されたオオムラサキの幼虫数が他と比べて多く、生息地としての重要性が明らかになりました。オオムラサキの存続のためには森林の面積や連続性が必要ですが、秦野市でも他の地域では、森林の減少に伴って生息地が限定されるようになってきています。このため、本事業が行われると、渋沢丘陵（ひいては大磯丘陵全体）でのオオムラサキの存続に大きく影響を与えるものと憂慮しています。

以上のように、オオムラサキを筆頭に、この事業地は森林性の生きものたちの中核的な生息地になっていることが推測され、巨大霊園の開発は、生物多様性の観点からは大きな問題があると考えられます。

この結果を踏まえ、当協会では秦野市および神奈川県に



●オオムラサキの越冬幼虫  
冬には木の根元の落ち葉の裏に  
いることから調査は容易である。  
ゴマダラチョウと、外来種であるアカボシゴマダラも確認された。

対して報告を行い、計画の見直しを要望しています。

本事業は、神奈川県環境アセスメント条例の適用面積となる20haにわずかに届かない規模であったことから、条例に沿った環境アセスメントは実施されていません。また、事業者が自主的に環境アセスメントを実施していますが、調査・予測および、調査結果の評価が不十分で、生物多様性への配慮が十分になされていません。

これまで、特に1980年代頃から90年代にかけて、ゴルフ場や道路、宅地開発その他で多くの里山が破壊され、数多くのチョウの重要な生息地が失われてきました。現在では環境保全への関心は高まっているものの、身近な自然を残していくことには、依然として大きな課題があります。現在、各地で生物多様性地域戦略の取り組みが進んでいますが、まだまだ市町村レベルでの生物多様性への関心は低いといわざるを得ません。今回のような個別の対応と並行して、近い将来、市町村レベルで生物多様性の重要な地域が把握され、自然と共存できる地域計画が立てられるような、社会的な枠組みの整備が進んでゆくことが望まれます。



オオムラサキ

### 意見広告

この意見広告は、公益財団法人相模メモリアルパークが、計画している渋沢地区・墓地造成事業に反対するものです。

20ヘクタール(6万坪)・東京ドームの4.5倍、1万5000区画

## 渋沢丘陵の 巨大霊園計画に反対します!



### ◆なぜ?国・県・市も「保全すべきだ」といっている土地に

渋沢・峠地区の霊園計画地には、絶滅危惧種のオオタカやノスリが上空を舞い、準絶滅危惧種の国産オオムラサキも多く見られます。夏の夜のゲンジボタル、足元にはキンランも咲いています。八国見山周辺は命に満ちた県内でも残り少ない貴重な里山です。

当然ながら、環境省によって「里地里山保全再生モデル地域」(全国4ヵ所の1つ)に選定され、また、県の地域環境評価書で「地形、水系、緑を一体として保全する必要がある」と判定され、市の緑の基本計画では「渋沢地区保全配慮地区」に指定されています。

このような所に巨大霊園を建設することは国・県・市の大筋的な方針に反します。本市で開催された全国植樹祭の趣旨に照らしても不適切と言わざるを得ません。私たちは、生きものの命あふれる里山を未来世代に残したいと考えます。

### ◆4.2%が埋め立て地

巨大霊園は、標高差100メートル、30~35度の急峻な沢の源流部を埋め立てて造成されます。埋め立て地は墓地の4.15%を占めます。谷を埋め立てた土地がいかにか地震、大雨に脆弱で危険であるかは各地の例を見るまでもありません。

東西部は大地震の発生がもっとも切迫している地域の1つです。事業者は100ミリ/時間の雨を想定していますが、近年これを超える大雨は県内を含む各地で観測されています。巨大墓地が、地震や大雨で下流部に崩れたらいったいどうなることでしょう。

### ◆経営の安定性は?

標高319メートル、八国見山(やくにみやま)両面の埋め立て地に1万5000区画の超大規模霊園。秦野市の墓地需要は年間二百数十基程度です。先行き不透明な経済状況の中で何百万円もする使用料、墓石、年間管理料。さらに墓地に対する国民の意識も変化しています。朝日新聞のアンケートでは「遺骨は墓地に埋葬してほしい」は51%でした。将来にわたる経営の安定性はどののでしょうか。

### ◆墓地は自然を壊さないで安全な土地に

事業者は、墓地には公共性・公益性があると書いています。だからといって、市民・県民の共有財産である貴重な自然を破壊してもいいことにはなりません。営利を目的としない公益法人には、自然を破壊せずに安全な場所に墓地をつくる倫理性と社会的責任が求められます。20ヘクタールもの自然を破壊して、後からあれこれ「保全」策を講じて、自然そのものの保全にはなりません。事業者は、他に開発済みの安全な土地を持っています。霊園計画地はそのような土地に変更するよう事業者及び市長につく要望します。

### ◆詳しくは陳情書をご覧ください

この問題についての陳情書を秦野市議会に提出しています。市のホームページ→市議会→請願・陳情の一覧→平成24年第3回定例会で見ることができます。

2012年11月17日

### 巨大霊園建設反対の意見広告をのせる会

代表世話人：山本とし子 日置乃武子 鈴木和郎

- 協賛団体 五ヶ所
- 厚木植物会 伊勢原の自然と環境を守る会
- NPO法人神奈川県自然保護協会 NPO法人日本チョウ類保全協会
- 神奈川県昆虫談話会 相模川歩き隊 さんげつ会
- 立野緑地山野草会 丹沢・未来プロジェクト 丹沢フタ党
- 日本野鳥の会神奈川県支部
- 秦野の自然と環境を守る会 秦野・冬水たんぼの会

この意見広告に関するお問い合わせは、鈴木和郎080-1192-5910へ

地元誌(タウンニュース2012年11月17日号)に掲載された意見広告